

電子メディア時代の紙メディアについての一考察

女性たちによるマンガ同人誌を事例として

東 園子（大阪大学）

目的・方法

現代では、インターネットによって個人が手軽に不特定多数の人に向けて情報を発することができるようになった。それにもかかわらず、今でも紙媒体を利用して（広い意味での）情報発信を行っている人は少なくない。例えば、アニメやマンガやゲームなどを好む「オタク」と呼ばれる人たちの中には、自分で描いたマンガや小説を製本した同人誌を作成し、同人誌即売会というイベントで販売する人が多くいる。

インターネットの普及によって、オタクたちの間では Web 上で自分の作品を発表することも盛んに行われるようになった。紙の同人誌を発行するには印刷代や同人誌即売会の参加料など様々な経費がかかり、赤字になる場合も少なくない。また、印刷所への入稿など周辺の作業も増える。無料で利用できるイラスト投稿サイトや個人サイトにマンガ等をアップロードする方が、手間や費用をかけずに世界中の人から自分の作品を見てもらうことができる。だが、Web 上での作品の発表が容易になった現在でも、紙の同人誌は大量に発行され続けている。とりわけ女性のオタクの方が紙メディアを利用して作品を発表する傾向があると推測される。

本報告は、女性オタクの同人活動（本報告では、作品の発表やその後の読者とのやりとりなども含めた、オタクたちの創作活動にまつわる行為の総体を指す）におけるメディアの使い方やメディアに対する意識を分析することを通して、電子メディアが紙メディアに与えた影響や、個人の情報発信手段として紙メディアが持つ利点について考えるものである。考察の元になるのは、筆者が行った同人作品を愛好する男女へのインタビュー調査である。とりわけ自らマンガを描いて同人誌を発行する女性たちの語りを中心に取る。

結果・結論

元々、オタクによる同人誌には複数の機能があった。これらの機能は個人サイトや女性オタクたちの間でよく使われている SNS にも見出すことができ、だからこそ同人活動にそれらのオンラインツールが浸透していったと考えられる。Web の登場は同人誌にまつわる慣習を変化させたが、同人誌の機能ごとに見ていくと電子メディアの影響には濃淡がある。例えば、かつての同人誌によくあった「フリートーク」のページや、同人誌と一緒に手渡されていた「ペーパー」と呼ばれるチラシは現在では衰退している。それは、それらが担っていた機能がオンラインツールで代替されるようになり、Web に取って代わられたと見なすことができる。

その一方で、別の機能に関しては紙の同人誌や、その主要な流通経路である同人誌即売会の方に優位性があるからこそ、現在でも紙の同人誌が盛んに作られているのだと考えられる。とりわけ本稿で注目したいのは、金銭が介在することの効果である。オタクたちの作品は電子メディアで発表される場合は無料で公開されるのに対し、同人誌として紙メディアで発表した場合は対価が伴う。同人誌の作り手たちは、自分の描いたものにお金が支払われるという経験に大きな意味を見出していた。送り手のみならず受け手にとっても手間も費用もかかる紙メディアは、その分慎重に選ばれるため、手軽に利用できる電子メディアでは得られないやりがいを同人誌の作り手たちにもたらし、電子メディアが隆盛する時代に彼女たちが自作の発表の場として紙メディアを選ぶ大きな理由の一つを形成している。